

開 会 令和6年9月30日（月）午後1時30分  
閉 会 令和6年9月30日（月）午後3時15分

# 令和6年度第2回金ケ崎町子ども・子育て会議 会議録

金ケ崎町子育て支援課

# 令和6年度第2回金ケ崎町子ども・子育て会議会議録

令和6年9月30日(月)午後1時30分金ケ崎町役場4階大会議室において、  
金ケ崎町子ども・子育て会議を開催した。

## 1. 出席委員

会 長	吉田 泰治	副会長	渡辺 理恵
委 員	菊地 春香	委 員	小南 麻衣
委 員	高橋 新悦	委 員	渡邊つる代
委 員	高橋 修	委 員	千枝 徳三
委 員	小野寺謙一	委 員	千葉 勝
委 員	鹿島 麻衣	委 員	扇 良明
委 員	榊 文仁		

## 2. 欠席委員

委 員	高橋 邦博	委 員	田村 一成
-----	-------	-----	-------

## 3. 町出席者

副町長 鈴木浩之

【関係課】 教育委員会事務局 次長補佐 渡邊久美子、係長 折笠可奈子、  
主査 市橋美花

【事務局】 子育て支援課 課長 稲葉郁子、課長補佐 浅利英克、  
副主幹 菊地淑子、主事 及川真人、  
子育て支援相談員 石川陽

【説明者】 ケイカラボ株式会社 代表取締役 村上勝俊

## 4. 傍聴人 2人(報道機関2人)

※委員の子ども2人預かり

## 5. 会 議

### 〔1. 開会〕

稲葉課長 令和6年度第2回子ども・子育て会議を始めさせていただきます。本日の司会を務めます子育て支援課の稲葉です。

本日は、高橋邦博様、田村一成様より欠席の報告をいただいております。

本会議は、金ヶ崎町子ども子育て会議条例第6条第2項により委員の半数が出席しております。定足数に達しておりますので、本会議は成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、吉田会長よりご挨拶をいただきます。

### 〔2. 挨拶〕

吉田会長 皆様、お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。ございます。

私の学校では、毎週月曜日の朝に職員打ち合わせがあるのですが、9月30日の本日、職員に言ったことは、まず上半期は今日で終わりますので、上半期の実践の積み重ねについて感謝を言いながら、いよいよ明日から下半期に実りを作っていかなければならないし、それを保護者にも伝えていかなければならないという話をしました。だから、明日は校内マラソン大会、19日に学習発表会があるという話をしました。

これを本会議に当てはめると、本会議の実りというのは非常に明確でございまして、金ヶ崎町子ども子育て支援事業計画の第3期がまとまれば、今回実りがあったということになると思います。今まで住民の皆様への調査をもとに、今回は担当課の方で、各事業所、担当部署にもヒアリングを行ってございまして、その評価に基づいて、骨子案が提示されております。われわれ各部署で得た専門性をもとに様々な意見をこれまで申し上げてきましたが、それが確かに反映されているものになるのかどうか、専門的な見地からご意見をいただければと思います。実りのある会になるよ

うに、どうぞよろしく願いいたします。

稲葉課長

ありがとうございました。続きまして、金ケ崎町副町長、鈴木浩之より皆様にご挨拶を申し上げます。

副町長

皆さんこんにちは。大変お忙しい中、ご出席いただきまして、大変ありがとうございます。

副町長の鈴木でございます。高橋寛寿町長が他の公務のため代理で出席をしております。町長から挨拶を預かって参りましたので、ご報告をさせていただきます。

皆様におかれましては、日頃から子供子育て支援に関する施策の推進につきまして、ご協力とご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。ご案内の通り、全国で少子化が進展しております。当町におきましても、ゼロ歳から14歳までの年少人口は、30年前の1995年に2,603人でありましたが、20年前の2005年は2,281人、10年前の2015年には2,030人、今年は1711人と二千人を割り、ここ30年間では約900人の減少となっております。また、総人口のうち年少人口の割合は、30年前は16.3%でしたが、今年は11.3%となり、年齢別の人口比率でも子どもの数が減少しております。

少子化の問題は、全国共通の大きな課題であり、国では様々な施策を打ち出してきております。令和6年6月には「子ども子育て支援法」が改正され、児童手当の拡充、妊娠・出産時からの支援強化、こども誰でも通園制度の創設、共働き・共育ての推進などの事業・施策が定められたところです。また、子ども・子育て支援特別会計を創設して、支援事業の予算確保を進めております。

町では、令和2年度から今年度（令和6年度）までを計画期間とする第2期の「金ケ崎町子ども・子育て支援事業計画」において、「家族すこやか地域が育むまち」を基本理念に掲げ、重点プロジェクトとして「とどけ！子育て情報プロジェクト！」を定め、各事業・施策を実施しているところです。前回の会議では、各担当課から報告された実績と、子どもや保護者へのアンケート調査及び事業者や団体等へのヒアリング調査の結果を踏まえ、第2期計画の

評価として整理をいたしました。その評価により抽出された「専門職の人材不足」「サービス内容や利用等がわからない」「子どもの健康等に関する悩みが多い」などの課題や「ヤングケアラーの早期発見」など新たな検討が必要となった事項に関しまして、改正後の子ども・子育て支援法や児童福祉法、その他国の方針を勘案した上で、第3期計画の基本理念、基本目標等の案を作成し、お示し協議いただきたいと考えております。

町の事業・施策及び地域での活動が子ども・子育て支援に繋がりを、子育て世代が金ケ崎町民憲章に定める「明るく楽しい健全な家庭」を築いていけるように、当町の地域特性を考慮した計画を策定して参りたいと考えておりますので、どうぞ忌憚ないご意見をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和6年9月30日、金ケ崎町長高橋寛寿、代読でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

稲葉課長        それでは、3. 報告に入りますが、本日副町長は公務のため、ここで退席をさせていただきます。

(副町長退席)

それでは、3. 報告に入ります。

ここからの進行につきましては吉田会長の方にお問い合わせいたします。よろしくお願いいたします。

### 〔3. 報告〕

吉田会長        本日の会議は、報告が1件、協議が1件あります。それでは、報告に入ります。

3. 報告「(1) 金ケ崎町子ども・子育て支援に関するヒアリング調査について」、事務局、説明をお願いいたします。

事務局        (金ケ崎町子ども・子育て支援に関するヒアリング調査についての調査概要の説明)

ケイカラボ(ヒアリング調査報告書の説明。以下、調査結果ポイントの概要。)

事業者への調査について

①人材確保・育成。

保育園では、保育士の人材不足のため、シフト作成や経営人数に影響が出ている。若い先生の育成も課題。

社会福祉協議会では、ファミサポの「まかせて会員」の不足のため、事業の周知をしにくい。社会福祉協議会自身も人材不足のため、学童保育の受け入れや子ども食堂の立ち上げにも影響が出ている。

②子どもの健やかな成長のための保護者の支援。

家庭でのインターネット等が普及し、メディアに触れる時間が多く、体を動かして遊ぶことが少ないため、親と子どもとの関わりの不足。さらに発達の幼い子どもが見られる。

親の仕事等の忙しさや、子育ての不安を抱えているので、子育てへの相談体制、働き方、関わり方への支援が必要になる。

③関係機関の連携。

幼稚園・保育園から小学校へのスムーズな接続が求められる。他に、行政、教育機関、子育て関連団体、サークルの地域の連携が非常に重要で、企画、周知活動、相談サポート体制を密にしていく必要がある。保育園・幼稚園・認定こども園では支援が必要な子どもが増え、サポート体制の充実が望まれる。

子育て支援団体への調査について

①地域全体での理解及び支援の強化。

子育て支援活動が地域で十分に定着していないことが課題。団体やサークルは活動しているが、その認知度が低く、新しい参加者の確保が難しい。そういった状況の中で、地域全体での支援が求められる。

②情報発信と、交流の機会の充実。

子育て支援情報が、親世代効果的に伝わっていない。必要な情報が不足しているため、情報発信方法の改善が求められている。オンラインでの発信に力を入れ、さらに子育て環境、子育てに関する知識や悩みを共有できる場の創出が重要。

異なる世代間の交流、外国にルーツのある方々も含めて、親

同士の交流の機会（場）が求められている。

③施設やサービスの改善、拡充。

屋内外で安心して遊べる場所や、一時預かり施設のサービスが利用しにくく、不足しているため、施設環境の改善が必要。発達障がいに関する相談場所やサポート場所の周知、早期療育支援を受けて行える体制、理解の促進が重要。

保護者調査について

①安心して遊べる場の拡充

屋外の公園や遊具の充実が求められている。遊具を増やして欲しい、荒巻公園などはトイレや地面の安全性の改善の要望がある。夏や天候の悪い日に利用できる屋内施設、エアコンの整備も重要な課題。

②子育て支援の拡大と親同士の交流機会。

一時預かりの柔軟性や安心感。急な事情、自分の親や子どもが病院に行く際に、預かってもらえる場がないという意見が非常に多かった。

母親同士で気軽に悩みを話し合える場所、息抜きのための一時預かりなど、親負担軽減のための支援がほしい。

子育てサークルについては、先輩や同じ境遇の母親と話したいとの声があり、出会いの場づくりが必要。

吉田会長           ただ今の報告について、意見や質問等はございませんか。

小野寺委員       事業計画5年間の実施にあたって、いろいろ支援団体がある中で、調査を見ると（社会福祉協議会の子ども食堂・ファミサポ・学童保育所に関して）人材不足や人手不足をボランティアですとありますが、事業を実施する上で負担が掛かる組織に対しての支援体制は、ボランティア同士の協力で終わりではなくて、人材の確保に対してどのような実績があるのか教えていただければと思います。調査の中に（設問「今後の施設運営や事業展開について、取り組んでみたいこと」に対する社会福祉協議会からの回答として）、ボランティア養成研修の実施と募集（町民・中学生・高校生・農大

生など)とあって、研修とは違って養成とはある程度強制を伴う要素があると思います。無償ボランティアは本当に余裕ある方しかできなくて、現実には難しいと思います。だから、どのような内容の予算項目が立てられているか教えていただきたいと思います。

子育て真最中の世帯は危機的状況に瀕していると認識していますので、行政の施策として相乗効果も含めて教えていただきたいと思います。危機感を持って自分たちで何とかしようと思っているのか、ボランティアの養成でこなせるものではないと認識しております。児童手当拠出金(現在は「子ども・子育て拠出金」)は、会社から取られます。民間企業は、従業員1人当たり何百円で、私どもの小さい組織でも、月額4,400円位を職員分で掛けています。本人負担がないから誰も気づかないのです。大きい組織だと何百万、何千万円を納めなくてはならないのです。それに基づいて児童手当が出ていますが、あたかも国が出しているような表現にされています。これは正しい税金の使い方じゃないと思っています。子育てに関して、対応した実績を聞きたいと思いました。

吉田会長 人材不足に対する対応実績、特に金銭面ということでしょうか。ありがとうございます。事務局お願いいたします。

事務局(浅利補佐) 一例として、子育て団体に対する支援に関しては、子育て活動団体の立ち上げへの支援等は行っております。その後、子育て支援センターに子育て活動団体の活動に関して支援いただき、新たな会員、新たに親になられた方に関してのサポート、情報提供に関してお願いしています。

一時預かり等では、教育・保育以外でファミサポ事業に関しては、町から社会福祉協議会へ年間180万円で委託して、年間事業を行っております。ただファミサポに関しては、預ける方が減ってきていますので、様々な場面で、社会福祉協議会と協力しながら、利用していただけるようにしていきたいと思っています。それ以外の個別の事業はありますが、主な事業は以上となります。

小野寺委員 この大事な計画の意義を考えると、私達ですら知らないことも

あります。子育てに対する情報に合わせて良くなった所や解消した事案、それから「このよう人たちがいます」「予算措置を講じてこのようにクリアした」など、外部からも含めて住民へ知らせるから良い効果が出てくるのです。当事者にだけ出しても、なかなか当事者が知らなかったというボランティアのことを考えれば、小学校で草刈りをやっても地区から2人しか参加しませんでした、なぜかという「知らない」「その意義が分からない」や、「手の空いた年寄りに来いという話なのだろう」と誤解した考え方でした。そういった諸々を含めれば、成功事例の手法を知らせればもっと有効な調査に仕上がるのではないかと思ったところでした。

吉田会長        なにかありますか。

事務局（浅利補佐）    お話あった件について、協議（1）の中で、過去5年間実施した事業も含めて報告しますので、また改めてご意見等いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

吉田会長        ではその他ありますか。

（なしの声）

吉田会長        次に、報告が終わりました、協議に入ります。

協議「（1）金ヶ崎町子ども・子育て支援事業計画（第3期）の骨子案について」、事務局、説明願います。

事務局        （金ヶ崎町子ども・子育て支援事業計画（第3期）の骨子案について／第2期計画の評価の説明）

吉田会長        まずは、第2期計画の評価ということで、説明がありましたが、質問・意見ないでしょうか。

小野寺委員        第2期計画の評価、アンケートとヒアリングをベースに、第3期計画の事業を組み立てるわけですが、（第2期計画から）引き継ぐ部分とそうでない部分を、計画策定が終わってヒアリング（パブコメか）の前に、教えてほしいと思っています。なぜかと言えば、本当に苦勞なさって、皆さん仕事として取り組んでいるわけです。一人一人がその効率や効果を求められる仕事ではなく、人が人に寄り添うような仕事です。人のために役立っていることを知るため、

予算執行に係る受益者の反応や変化といったものを知らせてほしいと思います。画一的に全部ということは無理で、一つずつ個々に対応しなくてはいけない事案がほとんどだと思います。だからそういう目配りを含めて協議していただきたいと思います。

低所得者の増加は、もういかんともしがたい対策でございます。いろんな施策が行われている中で、皆で考えなければならないことは、低所得者と一概に片付けてしまいますが、生活基礎の部分の脅かされているのです。手当もあります、これからは独自の施策を打っても、教育、養育の機会均等的観点から独自の予算措置が講じられるか、ヤングケアラーの該当者がいれば家庭負担軽減対策をと、みんなで英知を出し合って、一歩ずつでも取り組みを前に進めるように、話がテーブルに乗る計画策定にさせていただきたいと思います。それが、第2期計画の評価が第3期計画に繋がっていくのではないかなと思っています。

吉田会長           いかがでしょうか。

事務局（浅利補佐）   これから説明する第3期計画の基本目標や基本理念は、各事業を計画する前の一番ベースとなる部分となりますので、改めて意見いただき、それを考慮して計画の中に含んでいければと思っています。

吉田会長           他に、ご質問あればよろしくお願いします。

高橋（修）委員   44 ページで、いろいろ人材不足が増えています。ファミリーサポートセンターは、預ける側と受ける側の会員制の個人型です。社会福祉協議会の施設を使うこともあるが、家で預かるためか、なかなか伸びてないと現実あります。個人で預かりする人がいないわけで、個人型は責任問題もあって、今の社会では個人の自宅へ預けにくいこともあります。介護も住宅に1人で行き、責任を持ってお世話をやる仕事のため大変ということで、訪問介護という事業がもう消滅しかけてきています。

子ども食堂など居場所づくりが増えていますが、いろんな居場所ある中で、学童保育所も1つの居場所です。でも学童保育所は

条件がありますので、条件なしで利用できるような場所が望まれ、考える必要があるではないかと思います。子育て支援センターは、西のほうにあって冬に不便というご意見も聞こえてきます。施設も老朽化しているようですが、今後どのような見通しなのか、いろんなニーズに応じて違う場所にもあってもいいのかなとも思います。子育て支援センターとこどもの居場所の関係を考えたほうがいいのではないかと思います。

ワーク・ライフ・バランスの推進について、本当に大事な問題だと思います。少子化対策と子育て対策がイコールではないと思いますが、少子化対策はもっと幅広く考えなければならない要素はあります。今の生活が経済的にも安定して、子どもがいた方が良くという生活の状況にならないと、なかなか子どもを作るという気や結婚する気にはならないと思います。子育て対策が充実していることも、結婚して子どもを作る一つの条件になりますので、方向性として考える必要あると思います。

49 ページで、ヤングケアラーの話が出ましたが、14.3%という数値は、町内の調査結果なのかお聞きしたいです。

吉田会長 質問はヤングケアラーについてだけでよろしいですか。

高橋（修）委員 はい。

吉田会長 それでは、事務局お願いいたします。

事務局（浅利補佐） ヤングケアラーについては、町内の子ども達に対してのアンケート調査結果になっています。

高橋（修）委員 このデータが出たのは初めてですか。

事務局（浅利補佐） 前回と前々回の会議で提示しております。

吉田会長 前回、自分がヤングケアラーみたいに回答した子どもの中には、お手伝いレベルのものが入っているというお話でしたので、実際にヤングケアラーとして、子どもが困窮している状況と一致している数字ではないということかと思います。

その他ございませんか。

榊委員 44 ページの保育士の人材不足の課題が出てきていますが、現状・

評価には、まだは出ていませんが、ここは何も取り組み自体がなくて課題として急にでてきたのですか。

事務局（浅利補佐） ヒアリング調査で、各施設や事業者の方から、保育士や学童保育所の支援員が不足しているというお話がございましたので、それに基づいて挙げたところです。

保育士や学童保育所の支援員に対しては、町や国の事業で処遇改善として、給与の対応をしておりますので、働き方の多様化を含めて、様々な対策が必要と提案するところでございます。

吉田会長 他にございませんか。

扇委員 48 ページ「ワーク・ライフ・バランスの推進」の中で、中学校2年生と高校2年生への調査のところで、仕事は町内に希望する仕事はあるが、町内で働きたい人が少ないことに対して、課題では「町内で働きたいと思える環境を整えることが大切」と提示されています。どうしてそうなのか、お考えでしょうか。

事務局（浅利補佐） 働き先の件に関しては、仕事の部分が1つありますし、生活的な観点も1つあると思いますので、少子化の問題と同じように様々な要因を含んでいると思います。まず、様々な要因に関して、検討しながら、子育て支援の範囲で事業を可能な限り進めていく必要があるかなと思っていました。

扇委員 ありがとうございます。

吉田会長 他にございますか。

渡邊委員 保育士の人材不足という課題で、「職員の働き方の多様化も含めて早急な対策が必要」とあります。小学校の先生もそうだと思いますが、一緒に寄り添ってみて、気になる子どもが最近すごく多いです。うちの保育園（たいよう保育園）では、人材不足ではないですが、保育お預かりしていて、もっと一対一で丁寧に保育したい、寄り添いたいと思う保育士が多いです。子ども1人に対しての比率は最低基準を満たしており、各クラスに担任が1人ではなく2人でお互いに話し合いながらクラス運営をしている中で、気になる子どもが増えてきて、保育士が疲弊しています。保健師や教育委員

会の皆さんも足を運んで本当に一生懸命話を聞いてくれますが、早急の対策とは補助を含めて、その部分の配置ではないかと私は日々感じています。お願いします。

教育委員会事務局（渡邊次長補佐） 支援が必要な子どもについては、こちらでも情報交換しております。保育士の加配等については、いろいろな制度を活用して、今できる精一杯の配置です。個別の町独自で加配ができるかは、まだ決められる段階ではございません。

渡邊委員 その部分重要だと思いますが、金ケ崎町はいっぱい努力していることは分かりますが、近隣の市町村は、もう少し広がりを持っていることを調べていただければ分かります。

教育委員会事務局（渡邊次長補佐） 独自加算等については、各市町村での判断になりますので、今後検討させていただきたいと思います。

千葉委員 気になる子どもが多くなった要因はつかんでいるのですか。なぜ多くなってきたのか、その要因や原因が分かれば、次の解決策に繋がる気がします。それは金ケ崎だけの問題なのか、全国的にも気になる子どもが多くなってきているのですか。

渡邊委員 私としては、やはり核家族が増えてきたことにあると思います。三世代であれば、おじいちゃんおばあちゃんがいて、気になる子がうまく育てられている昭和の時代だったのですが、今は情報がいっぱい出ていて、親御さん達はスマホで調べて判断します。また、親御さんが忙しいので、ゆっくり親子で一緒に遊ぶ時間もなくなって、子どもとして生まれて育ちの中で自然に大きくなっていくということが今一番難しいところで、気になる子どもというのは、今の社会情勢の中で培われて作られてしまった子どもの姿であり、日本中、世界中と思います。

千葉委員 参考になりました。

吉田会長 私の考えとしては、その親御さんの受け皿や社会の受け皿も、すごく文化が発展してきていると思いますが、その分余裕がなくなっているのかなど。決めつけ過ぎかもしれないですが、農業が盛んだった時代とデスクワーク中心になってきた時代で適用でき

る子供たちがすごく違うような気がします。

小野寺委員 子どもに対して職員（保育士・放課後児童支援員）や広さまで制度で決まっていますので、データ化して良いと思います。子どもの受け入れ人数は学級の設置の仕方など、いろいろ対応があるはずで、今後少子化はすぐなおらないと言われている中で、施設の統廃合ということで今の時勢に対応する現状分析と人員の関係、人員不足との因果関係が課題にはないわけです。現在働いている人達の働き方改革の中で、どういう体制でどう取り組みするか。また、保育士や放課後児童支援員の他に、事務・経営の職員がいますので、どの部分の人材が不足なのか、まずデータ分析したほうが、導き出し方が早くて現状に対応できると思いました。分析した状況も分かる範囲でお知らせできれば、共通のテーマとして話し合える土台があると思いました。

事務局（浅利補佐） 資料1の2ページで、社会福祉協議会が新規の人材不足という回答をしておりますし、保育園では人材不足、人材育成という課題が上がってきています。詳しい内容については、13ページの社会福祉協議会へのインタビュー回答で、新規の人材が不足しているということと、金ヶ崎学童保育所の入所可能人数を超えた場合を検討しているが、職員も建物も確保が厳しいということで話がありました。さらに24ページのたんぼぼ保育園へのインタビュー回答で、今は人材充足しているが、よりいけば職員の負担が減るので、常に募集をしているとあります。また人材育成の面では長く勤めている先生方が多いが、ここ2～3年で若い先生も入ってきてくれたので育成していきたいということで、人材育成に関する課題があります。それぞれの施設によってそれぞれの状況があった上での人材不足ということで、課題としたところでございます。

吉田会長 恐れ入ります、本会議は3時で終了予定ですが、5分前となりました。それで今話題に上っていることは、もう全国的、世界的な課題が大分及んでおりまして、それに金ヶ崎町で1mmでも穴を開けられれば、本当に素晴らしいことだと思うので、ある程度限ったお

話をしていかなければならないと思っております。先を急ぐように申し訳ないですが、第3期計画のご提案をして、その上でまたご意見いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(はいの声)

吉田会長           では、説明をお願いします。

事務局           (金ヶ崎町子ども・子育て支援事業計画(第3期)の骨子案について/第3期計画(案)の説明)

吉田会長           私たち委員とすれば、具体的にこうやって確かにそれだったらうまくいきそうと納得ができれば、この会議はすぐ終わると思いますが、なかなか具体策まで、ここで検討していることは難しい。今お話あったことは、理念が示されて、どう具体的に進めていくというのは、また次の検討ということになるかと思いますが、この理念や担当部署について、ご検討いただければと思います。時間ないところですが、よろしくをお願いします。

千枝委員           「第2期計画と第3期計画(案)の比較表」の基本目標4. 子育てを支援する生活環境の整備について、充実を望む子育て支援策の中で「子どもが安心して遊べる場所」は小学生以下の保護者のポイントが高いですが、課題のところは「小学生以上の子どもが安全に遊べる場が求められます」となっています。「かねがさき こどもおでかけマップ」は、公園というよりは小さな遊び場が何ヶ所かあるという感じで、既存施設の有効活用も必要ですが、子育て世帯にとって魅力的な住みやすいまちづくりということで、やはり遊びの場が欲しいという要求が多いですね。町として、具体的に考えて欲しい。小さい子ども達とお母さんが一緒に行き、ゆっくり遊べる広場、広い公園の設置は、町としては必要ではないのではないかと、私は非常に思いますし、そういう意見も聞きます。本当、町として具体的に進めて欲しいという意見・要望です。

吉田会長           他にございませんか。

私から、地域との連携という言葉が何回か出てきますが、学校

もまた地域と連携するようにと言われています。地域として想定されるのは、ある程度時間とお金に余裕のあるお年寄りになると思いますが、定年延長となり雇用の期間が長くなっているのも、元気なお年寄りもほぼ現役で、仕事のため連携できない状態です。地域との連携は非常に良いとは思いますが、その地域とは誰なのか、もう少し明確にしていくといいのではないかと思います。

他にございませんか。

小野寺委員　　今まで一貫して言い続けてきたのは、第2期計画で Plan・Do・Check があって、その上にヒアリングが重なって、今までやってきた成果に Check が入らない感じです。国が示した対策を作っているだけです。だから、金ケ崎の現状を分析して、Check。会議を開いたと Check することは大事で、その中で要望やクレームが出て対処する。どの部分が、金ケ崎町としてできなかったのか、対応できたとかは、必ず Do・Check があって次 Action となる、簡単なサイクルなのです。要望を聞くことはいいです。一つ一つの意見に対して、主観を置いて、Plan・Do・Check をちゃんと積み重ねて、結果の中で、未解決と終わった部分があったら、未解決で終わらせないで、きちんと原因解明していくことが求めていることで意見を申し上げます。先ほど言ったように、草取りに年寄り2名しか行かなかったけれども、「地域の皆さんこういう支援体制が必要です」とすれば、教育振興会からきちんと出られます。しかも手で取るのではなくて、業務用草刈機を小学校に貸したことがあります。危険な行為が伴うから用務員には貸せない、職員が使ってくださいと、そこまでやっています。情報が正しく伝わらないとなると、何一つ改善されないまま終了となって新しい計画に入ることが、非常に残念という思いがあります。主観的な意見と客観的なデータは対になっていると思います。金ケ崎町でできること、岩手県や岩手県教育委員会が入らなければできないことが、きちっと洗い出しされた上で対応をしてもらうという手法は金ケ崎町内でも行うべきじゃないではないか。ボランティアの人達は、金銭が伴わな

くても、私達の気持ちを通ったとか、想いが通じたとかという励みの中で少し希望を見つけたとか、もう少し頑張ろうと思う。人と土地と水は、全部地続きで、どこでも切れない。水道水、地域の要素、人間関係も、ここで切りますとは間違っても言えないことです。だから、それを客観的に答えられるような中身にされた方が最も実のある体制が整えられるのではないかと、常々思ってお話伺っておりました。

吉田会長           はい、何かここでぜひというものがあればお願いいたします。

（なしの声）

吉田会長           では、今出た意見をもとに、また次回の会議をお願いします。  
以上で協議を終わります。

#### 〔5. その他〕

稲葉課長           吉田会長、ありがとうございました。

次に、5. その他に入ります。皆さんからございませんか。

では、事務局より報告があります。説明をお願いします。

事務局           （今後の会議の予定について、11月、2月に開催と説明）

#### 〔6. 閉会〕

稲葉課長           それでは以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。大変ありがとうございました。